事例No.	1918
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	長野県

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	DX

事例内容・タイトル

県立病院による村診療所へのオンライン診療導入

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【長野県】
県立病院による村診療所へのオンライン診療導入

DX　病院事業

長野県健康福祉部医療政策課（地独 長野県立病院機構）

● 取組の概要

医師不在の村診療所（へき地診療所）において、へき地医療拠点病院である県立病院の医師が病院内からオンラインで診療する仕組みを導入した。

◆総事業費　機器購入費・工事費 600千円

◆背景

- 村で雇用していた村診療所の医師が退職したが、後任の医師が見つからないため、村では県立病院に対して医師の派遣を要請した。
- 県立病院では、週1回、村診療所に医師を派遣し対面診療を行っていたが、村は診療回数の更なる増加を病院に対して要望した。
- 県立病院では、村の要望に応える方策を検討したが、医師の働き方改革を進めるためには、医師の負担軽減策を講じる必要があり、要望に応えることが難しい状況にあった（病院から診療所までは、片道約20kmの移動が必要）。

◆具体的内容

- 病院と村診療所とをインターネット回線で結び、対面診療とは別の日に病院にいる医師が村診療所の看護師のサポートの下、患者を診察するオンライン診療を導入。週2回の診療（対面1回・オンライン1回）を実現することができた。

◆効果

- オンライン診療の導入により、医師の負担軽減（診療所への移動が不要）を図りつつも、へき地に住む住民の医療機関への受診機会の増加につながった。

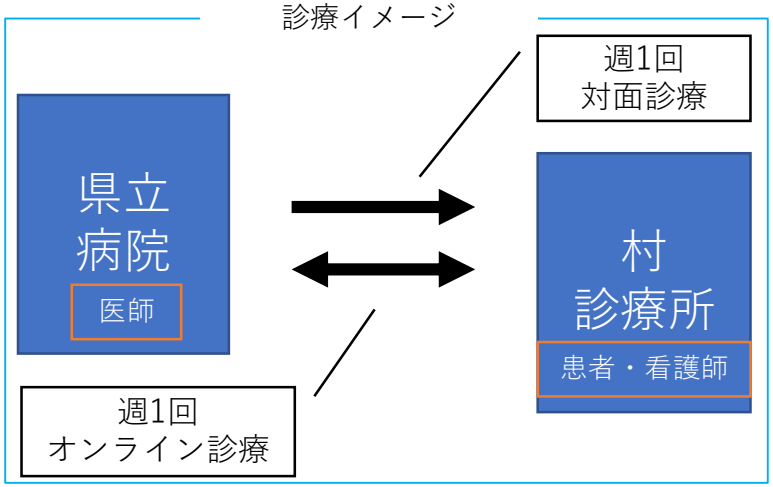
● 取組のポイント

- オンライン診療に必要な機器は、村診療所の医療スタッフが操作するため、患者は機器を操作する必要がない。
- 医師は、診療所まで移動する必要がないため、身体的な負担が軽減されるとともに、移動時間を他の業務に当てることが可能となった。
- 医師の地域偏在を背景に、へき地の医療機関では医師の確保が困難となっているが、オンライン診療の導入により、限られた医療資源を有効に活用するノウハウを確立することができた。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　2,029,541人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　13,562km²（令和4年1月1日時点）
- 許可病床数（5病院合計） 933床（令和3年度決算）

診療イメージ



● 取組のスケジュール

- 令和3年4月から村診療所に県立病院の医師1名を週1回派遣。
- 令和4年5月からオンライン診療を開始。

● 今後の展望

- オンライン診療のノウハウは、他の診療所においても活用可能。
- 基幹的な病院の医師が、近隣の医療機関の患者をオンラインで診療するスタイルは、医師不足が課題となっているへき地医療の新たなモデルとなる可能性がある。